

KENKO TIP FOR FAMILY

2016年9月10日



新しいお薬について

医学博士 精神科専門医 精神保健指定医 産業医 佐野 秀典

海外から、生活習慣病関連のお薬以外に、相談が多いものが、

- 1: 胃薬、
- 2: 便秘薬、です。

海外生活では食生活が大きく変わり、仕事の緊張も相まって、消化器系への負担は国内の何倍にも強くなります。不快な症状が慢性化しやすいのは当然なことですね。

中でも先日もKENKO TIPでとりあげました「**逆流性食道炎**」は相談も診断も本当に増えました。これは、胸焼けが続く、咳が出る、胸が痛いというのが主訴。胃酸が食道へ逆流することで出る症状で、もともと欧米人に多い疾患だったのですが、海外での高脂肪の食事で、この疾患になる方は年々増加しています。この逆流性食道炎には、**オメプラール、タケロン、ガスター**などを処方することが一般的です。ただし、これらは軽症の場合は効果がありますが、海外での生活で慢性化、重症化してくると胃酸の逆流が一層増え、一般的に処方されるお薬では効果的にしてくなくなっています。かといっ

て海外で処方されるお薬は強すぎて気持ち悪くなったり肝臓などほかの臓器の数値を悪化させることも少なくありません。そうした状況の中、日本では20年ぶりに新薬「**タケキャブ**」というお薬が発売されています。先生方の評価もなかなか上々。前述したお薬は、その効果を得るのに1週間を要したり、個人差もありましたが、このタケキャブは1、2日で効果が現れ、個人差も少ないのが特徴です。また食後に飲んでも効果が発揮されるというのも優れた特徴といえます。

もうひとつの主訴「**便秘**」には「**アミティーザ**」というお薬が登場しました。なんと30年ぶりの新薬なのです。便秘というのは、食物繊維が大腸の中を通って弁になっていく過程で水分の調整がうまくいかなくなることで起こる症状です。便秘にはいくつかのタイプがありますが、**海外から相談があるタイプはほとんどが、「弛緩性便秘」**です。これは緊張や疲労で大腸の蠕動運動が低下することや、年齢&

運動不足による筋力低下で便を出す力が弱くなることで起こります。これまではマグネシウムが大腸に水分を集めて便を柔らかくして排出するお薬、大腸を刺激して蠕動運動を起こして排出するお薬が一般的でした。今回の新薬は、小腸にアプローチしていくというもの（長くなるので省略しますが）。そのため従来のように痛みがなく自然な便意を起こす働きが特徴的です。便秘に悩む方にとっては本当ありがたいお薬とえますね。

このほか、海外では解消されている「**花粉症**」にも**シダトレン**という舌下薬が一昨年登場。シダトレンは治療期間に2年を要するので、いまその服用の真っ最中ですが、1日1回液を舌の下にたらずだけという簡便さが喜ばれ、1年経過して治療の効果を実感できたという声も高いそうです。日本に帰国した後の治療法として参考にしてください。

MDの先生方は「**薬理**」に詳しい方々ですから、**お薬についての疑問は何でもご相談ください。**